

の数は非常に少い。それに新しい變光星が発見せられるので年々百も二百も増加して益々學者の仕事が熱して行くことになる。そこで比較的容易な觀測は素人の中で誰か熱して行く人にならなければならない。餘程觀測の方法に熟練しなければ好結果を得ることは出来ないやうに思はれるが、これも矢張り程度問題で熱心さへあれば悔い難い結果を得ることがあるので、天文學者は夫れ夫れ新規の星の如きは特別な熱心家に任せて、天文學者は夫れ夫れ新規の問題の研究をして、素人熱心家は専門家を援助せなければならぬのである。山本助教教授は藤井天文臺で觀測の爲めに十數個の變光星の目錄を製作して常に觀測して居られます。不規則な變光をする雙子座γ星と同種類のものがあつて何時増光して來るが不明のものは監視を怠ることの出来ないもので、かといふ性質のものが今天全體に五つばかりあつて、西洋でも随分熱心に毎晩監視されて居る。けれども歐羅巴と亞米利加と日本とは土地東西の關係上、見える時刻が異つて居るから、その星を歐羅巴でも亞米利加でも、我が國でも觀測する必要が大にあるので、此の種類の星が吾々日本に於ける變光星研究家の爲めに非常に大切な星であると思ふとて、我が國は位置上、歐米に於て監視することが出来ない時に觀えるから是非熱心家やつて貰ひ度いと述べて居られます。大津の藤井望遠鏡があつたが爲めに、意外な成功を遂げられたことは、大正十一年一月三十日の晩、西の方の空に於て白鳥座のεスエス星が平生十二等星であるのに此の晩丁度、今増光しつゝあると云ふことを發見されたことである。光が十分に上がりきつてしまふた時に、上がつてゐると見るのは能くあるが、丁度今増光して居る最中であること云ふのは、極一瞬間のことであるから、こふ云ふ場合を捉へられたことは大變愉快であつた。特筆大書されてゐます。

紙面の都合上以下十行程省略す、筆者の御寛容を乞ふ

此の頃小望遠鏡で面白い星

オリオン座U長週期變光星

赤徑五時四十九分五十三秒、北二十度九分五(一九〇〇)週期三百七十五日の長週期變光星で變光範圍は五、五等から十二、五等までである。千八百八十五年十二月ゴア(Gore)氏が發見した。極大時には甚だ赤いのですぐ氣がつく。

今年の極大は八月中旬で暁天日出前に觀測出来る。極小は三月中旬であるから觀測はしにくい。三時望遠鏡所有者の爲に變光星附近一度平方の十等星までの圖と比較星の等級を出しておく。

等級	x	d	f	l	m	n	o	p	q	r
4.52										
5.80										
6.62										
8.27										
8.88										
9.00										
9.36										
9.66										
10.18										
10.56										

此の星を探すにはオリオン座のx'をたよりとする。

双子座 α 二重星

赤徑七時二十九分五 赤緯三十二度四分

二〇等と二・八等の美しい重星で現在の位置角は二百十五度距離は四、六秒で良い一吋では二重星に見える。二吋三吋では甚だ容易な美しい星である。

週期長き連星である。

A・B共に分光儀的連星である。位置角百六十五度七十三秒の所に一つの九等星がある。

